

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400103		
法人名	医療法人 福西会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	福岡市早良区早良1丁目5-51		
自己評価作成日	平成29年3月日	評価結果確定日	平成29年5月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成29年3月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

法人全体で教育体制を整えている為、研修や育成については充実している。さらには法人で多様な専門職を配置しており、特に食事においては栄養士の栄養管理のもと献立を作成し、バランスのとれたおいしい食事を提供している。家族会では仕出しをとり、食事をしながら家族団らんの場合・家族と職員の意見交換をメインとしている。地域との交流として近隣の行事には積極的に参加し、少しずつではあるが地域住民との交流も増えてきている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

早良から三瀬に抜ける国道沿いにある「グループホームふれあい」は、母体法人である福西会南病院と同じ敷地内に老健やデイサービスとも併設された2ユニット事業所である。目の前に病院があることと、新たに在宅診療も始まったことで、医療面での安心感が高い。開設から6年目を迎えるが昨年から改めて地域交流にも取り組み、初めて、地域ボランティアの受け入れや保育園からの慰問にも来てもらった。法人全体での研修体制も作られており、入職時のほか、経験年数に応じての現任研修が毎年定期的実施され、スキルアップに努められている。また法人内での他職種連携としてリハビリや言語療法士による嚥下訓練などを受けることもできる。病院や系列施設と共に、地域福祉を支える活躍が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	従来の経営理念に基づき、ホーム独自の理念を作成し掲載しておりミーティング時に共有している。毎年度初めに当年の指針・目標を事業計画として作成している。	開設時からある事業所独自の理念があり、それを元に毎年職員間で話し合って年間の目標を定めて取り組んでいる。パンフレットの掲載やフロア内の掲示もしており、日頃から目につくようにしている。新年の目標設定の際に前年度の実施状況を振り返り、目標の継続や刷新を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、夏祭り等参加出来るものには積極的に参加している。また、ボランティアの受け入れやクリスマス会で保育園との交流も行っている。	隣接するひまわり苑での夏祭りがあり、地域の方にも案内して開放している。昨年事業所単体でのボランティア受け入れも始まり、依頼したことで、初めて保育園からの慰問も受けることが出来た。地域情報は主に、お便りや運営推進会議時の伝達で確認している。法人としては認知症専門科を通して情報発信もされている。	ボランティア活用の機会を増やし、外出時の支援や入居者が体験的に出来るものなど、幅広い関わりが作られることに期待したい。地域での事業所連絡会の参加による情報収集や相互協力体制の構築にも取り組まれてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所では実践的な講師の派遣などは行っていないが、運営推進会議などで情報を収集し、必要な事は積極的に協力するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回(奇数月第4金曜日)に運営推進会議を実施。家族にも開催の案内をし、活動・行事・苦情相談などを報告している。また、地域との関わりについて相談を行っている。	2階の相談室で開催し、家族には全員に案内し、1～3家族が参加されている。地域包括、民生委員、老人会長なども参加され、活動報告のほか、地域の外出スポットや行事などの情報を頂くこともある。議事録は前回分を開催時に報告している。	取り組みを知ってもらうために、議事録の掲示や閲覧公開、郵送などによる報告を行ってはどうだろうか。他のグループホームとの相互参加など行うことで取り組みを参照してより発展的な運営推進会議につながることも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管轄の包括支援センターの職員が運営推進会議の構成委員となり、日ごろから連携を図り特に介護に関する情報を頂いている。	内部での情報交換で解決する事例が多く、最近では特に相談もなく、連絡する機会も少なかった。生活保護の方の受け入れもあり、必要時には報告なども行っている。介護申請時は窓口に訪問して行う。	地域の事業所連絡会には行政職員が参加することも多いため、その機会を通して関わりを作ってはどうだろうか。運営推進会議の案内も議事録と一緒に市役所担当課に送ることで、つながりが出来る事にも期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止については、新採用時研修やグループホーム内でもその都度話し合いをし理解を深めている。	正面玄関は職員管理による自動ドアで、外からは入れるが中からは操作をしないと出られない。直近の離脱事故もなかった。身体拘束をしない方針で、転落防止にもセンサーを使って対応している。外部研修の参加や、関連施設合同の勉強会も行い伝達もしている。	

H29.3自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法関連法については、新採用時研修及び事業所内研修で理解を深め、事業所内において早期発見・防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2名の方が成年後見制度を利用している。制度に関する説明が出来るようにパンフレットを用意し、家族も閲覧出来るようにしている。	入居と同時に成年後見制度を利用され始めた方もおり、外部の後見人利用とのやりとりを通して制度理解を進めている。新人研修や法人内での研修なども定期的に行っている。今のところ新たに制度利用を検討する方はいないが、必要時には区の出先機関などに相談して対応する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約についての基準を設け、入居時に利用者・ご家族に十分に説明を行い、理解を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族が参加し、外部者に向けて意見を表せる場を設けている。意見・要望があった場合には話し合いを行い運営に反映させている。また、意見箱の設置をしているが活用されたことがないため、無記名でのアンケートを年に2回行っている。	毎月の請求支払など面会のほか、家族会を年2回実施し、敬老会との同日開催や花見などと一緒に、多い時では半数程度が参加されている。28年度から独自アンケートを無記名で配布し半数程度の回収があった。毎月担当者から、行事写真にコメントをつけたものを送付している。満足されているという家族も多く、具体的な要望があがることは少ない。	家族から日常の様子を知りたいという要望もあがっているので、モニタリングを使った報告や、日常の詳細を記入したお便りの作成などがなされることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見を聞き業務改善などに反映させている。また、年2回キャリアアップに対する意向確認を行っている。法人本部による全職員の個別面談も実施している。	ミーティングは原則全員参加にしており、出られない場合も意見を事前に伝えている。本部の管理者も参加し、会議での意見も上げやすい。日頃から会議の場以外でも個別に相談することも出来る。備品購入に関しても稟議によって打診され、必要な物は対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事考課、年2回賞与考課、また必要に応じて面談を行い、働きやすい職場環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女や年齢を問わず、個々の能力や特技を活かし役割分担を行っている。	男女の職員で、20～60歳代の職員がおり、季節の飾りつけなど職員それぞれの能力や特技を活かしコミュニケーションを取りながらケアにつなげている。研修案内もあり、希望すれば参加することもでき、場合によっては勤務扱いにもされている。休憩時間の確保や、休憩スペースも準備されている。	

H29.3自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や職業倫理について、新採用時に研修を行い、利用者の人権尊重に努めており、職員・ご家族など閲覧できるように用意している。	新入職時には法人主体での研修を行い、人権に関しての指導もしている。現任者に対しては、昨年度は外部研修や内部研修の実施もなかった。実践者研修に参加した職員も何名かおり、人権学習を受けたが伝達はされていない。	市や関連団体が主催する外部研修の参加検討や、人権啓発センターの資料や無料講師派遣を活用した研修など、事業所としての人権教育や啓発がなされることにも期待したい。レク的に外部講師利用を検討されるのもいいのではないだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員への指導は5年以上の経験者が行いキャリアアップに努めている。また、職員のキャリアに応じて社内・社外研修に参加する機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のよかとこネット・いとの会に参加し、他事業所との交流を図っており、サービス向上に向けて情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族との会話の中から、不安や要望に耳を傾けている。その思いを介護計画に反映させ、安心した生活を送ってもらえるように支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時・入居時など、十分に面談を行い、家族が相談しやすい環境作りに配慮し、小さなことでも話して頂けるような関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時アセスメントを行い、課題や本人の心身に関するニーズを見極め支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事・出来ない事を見極め、ゴミ出し・食器拭き・洗濯物たたみ等自分で出来る事は見守り・寄り添いながら共に実行し、生活の場であることを意識している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画作成時には意見を聞き、プランに反映させながら家族と共に本人を支える姿勢を持っている。月に1回日々の状況を家族に報告している。		

H29.3自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人からの電話での様子伺いや面会があった際は再訪していただけるように働きかけるようにしている。	家族の面会機会は多く、7割程度は月1回～の面会に来ているが、知人や友人の来訪を受ける方は少ない。正月など一時帰宅や外出する方もおり、ドライブの際に自宅近くを通ることもある。必要には家族に支援してもらって外出してもらい、去年は個別支援による外出を計画していたが実現にはつながらなかった。	事業所からの支援による、個別外出が実現され、馴染みの場所の訪問などによる意欲の刺激につながっていくことにも期待したい。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格・生活スタイルを把握し、個人の状態に合わせた支援をおこないつつ、利用者間の馴染みの関係作りも大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	敷金返金時にその後の話しをし、相談などあれば対応するようにしているが、在宅復帰者がおらず病院や他施設へ移動している為、長く継続できていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活を通して本人の希望をアセスメントしている。本人からの聴取が困難な場合は、ご家族からの情報を参考にその人らしさを大切に本人本位に検討している。アセスメントの取り方など、法人グループから情報収集し改善している。	初回はケアマネが担当し、それ以降は職員に担当者を振り分けて、面会時や、電話によって家族から情報を聞き取っている。法人内の系列事業所のやり方なども参考にしながら、事業所としての様式を使ってアセスメントを行う。見直しは随時～半年で行い、必要時には追記などもしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて本人・家族からこれまでの生活歴などの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を参考に、現在の生活スタイルを把握しケアプランに反映させている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者や利用者・家族でカンファレンスを行い、本人の意向を反映したケアプラン作成を行っている。	入居者ごとの1:2程度の担当制にしており、アセスメント、モニタリング、プランの素案作成、家族への説明まで担当者が行い、ケアマネが監修している。ケアプラン目標の実施チェックを毎日行い、毎月のモニタリングにもつなげている。プラン見直し時には担当者会議を開き、主治医からの参考意見なども取り入れている。	担当者会議は本人や家族、主治医からの意見も参考にして定期的に行われているが、記録様式に参加者を記録する項目がなかったため、議事録として残るように改訂されることが望まれる。

H29.3自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に記入すると共に、申し送りファイルを活用し職員間で情報共有している。介護計画の見直し時にはケア記録・担当職員の意見を参考にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向・ニーズに応えられるよう栄養士に相談したりしてバランスの良い食事提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者にとっての地域資源を把握するように努めている。地域行事にも参加しており、さらに利用者が活躍出来る場を探していきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認し、事前に情報提供を行い、適切な医療を受けられるように支援している。必要なときは送迎や付き添いも行っている。	母体病院以外でも希望されれば外部のかかりつけ医を継続することも可能で、2週に1回の訪問診療や定期受診がされている。通院は原則家族にもらうが、行けない際などは事業所からの支援もおこなう。必要な情報は随時家族に報告し、内部での共有も行っている。訪問看護利用による健康管理も毎週なされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受け意見交換し、個別に適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には情報の提供、入院中には病院関係者との情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応指針・同意書を得ており、状態変化に応じて家族や主治医、職員等関係者で話し合い支援している。	昨年からは母体病院での在宅診療が始まり、受けられるようになったことで看取りに関しての体制も変わってきた。看取り指針を定めており、希望があれば受け入れるが、今までに対応した事例はなかった。学習も内部研修によって定期的に行っている。提携医も24時間、夜間の救急体制に対応されている。	

H29.3自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回社内研修にて急変時の対応・事故発生時の対応について実施している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。避難場所は、敷地内の病院・老健施設もしくは近隣の小学校になることを、職員全員に周知している。系列病院・老健施設等の応援体制作りを行っていききたい。	事業所単独で、年2回夜間想定訓練を行い、うち1回は消防署にも立ち会ってもらっている。地域への呼びかけや参加も今まではなかった。備蓄物は現状の所は老健や病院の物を共有で使う予定であるが、準備を検討している。防災マニュアルがあり、新入職時の伝達もしている。	敷地内の併設施設との合同訓練の実施や、緊急通報での連絡体制など相互の協力体制が作られることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権・尊厳及びプライバシー保護についての社内研修を実施している。日頃より、利用者の尊厳を損ねないよう管理者を中心に指導を行っている。特に入浴や排泄時のプライバシーについては配慮するようにしている。	本人が嫌がるようなことは行わず、一人で過ごされたい方には過度に働きかけず自主性を尊重している。写真利用も含めて個人情報利用の同意を入居時に頂いている。言葉かけも相手の状態に合わせて、失礼の無いように働きかける。法人内の研修で、毎年接遇やマナーに関しての研修も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族から希望や意向を聞き、日々の関わりの中で声掛けにより可能な限り自己決定出来る場面を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意向に応じてサービスを提供するように心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時にはなるべく本人に洋服を選んでいただけるように支援している。男性利用者の髭剃りや好みの身だしなみの支援、希望に応じて理美容の利用も支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に同じ敷地内にある老健施設での調理になるが、毎週木曜日に昼食をGHで準備している。メニュー決めは利用者の意見を聞くなどして決定し、調理や片付けなど出来る事を共に行っている。職員も同じメニューと一緒に食べるなどしている。	毎食ごはんのみ事業所で準備し、他は朝昼夜と老健からの配食を受けている。徒歩圏内にスーパーもあり、木曜の昼食に必要な食材などを一緒に階に行くこともある。手伝える方には手伝ってもらい、配下膳や皿ふき、下ごしらえの手伝いをされる方もいる。職員は基本は個別に食事しており、希望した際に調理レクなどで一緒に食事することがある。食べたい物の希望は木曜の事業所内調理の際などに対応している。	

H29.3自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立によりバランスの良い食事を提供している。また本人の状態に応じて、食事摂取量や水分量確保、トロミやキザミ等の対応も行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施の声掛け・介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握。個人に合ったタイミングで誘導や声掛けを行い、トイレでの排泄をすすめている。また、その方に合ったパットやオムツを提案し使用する事で失敗や使用を減らすよう努めている。	入居者ごとの排泄チェック表があり、半月単位で記録されている。便秘の際も日数で管理し、医師の指示も仰ぎながら適宜対応している。職員で話し合って工夫しながら、入居者の負担にならないように、パットの大きさや使用に関して改善に取り組み、パンツから布パンツに変えられた方もいた。担当に係らず、気づいた職員がそれぞれ率先して意見を上げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスの良い食事の提供や水分補給、適度な運動を行う事で便秘予防に努めている。便秘の方については、事前に主治医より指示を受け、服薬管理を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、本人の希望や状態により順番を変えたり、日にちをずらすなど対応している。お湯は溜め流して清潔に保ち、全員が気持ちよく入っていたりするように配慮している。	タイル張りの普通浴室で、三方向介助できる位置に浴槽が設置されている。基本的には曜日を決めて、週3回の入浴日に行っているが、希望があったり、汚染があった時などは随時の対応もしている。今は拒まれる方も少なく、ゆっくり入る方もいる。シャンプーなどはそれぞれ個別に準備してもらい好みのものを使用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の際は温かいお茶をすすめるなど支援している。不眠が続く方には主治医と相談し安定剤などの処方・服薬支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾病や内服の情報収集を行い、主治医の指示のもと内服管理を行っている。状態変化時は速やかに連絡・相談を行い指示を仰いでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や意向・出来る事を把握し、ゴミ捨てや洗濯物たたみ等の役割り作りを行っている。また、季節に応じた催しものを行い、生活の中にも楽しみが持てるように支援している。		

H29.3自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺への散歩や催し物に出かけたりなど支援している。また、ドライブなど車で外出する機会も増えている。	敷地内での散歩や周辺の外出は日常的にされている。毎月何らかの外出行事を企画し、老健などの車も借りながら事業所全体や、ユニット単位、少人数での外出を行っている。外出が刺激にもつながり、初めは拒まれていた方も最終的には楽しんでもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に金銭の管理はGHで行っているが、希望された場合は家族と話し自分で所持している。買い物の際は職員と一緒に行き支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話など、家族との関わりが持てるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室・食堂など共有スペースは、安全・清潔であるように心掛け、清掃・整理している。	1, 2階の造りはほぼ共通で、食堂、リビングスペースを中心に居室が配置されている。リビングの後ろ側がカウンターキッチンになっており、ステーションからの見通しも良い。壁や天井などに季節ごとの飾りつけがなされ、窓外の風景と共に季節の移り変わりが感じられる。物もあまり置きすぎずシンプルにしており、トイレも3か所あり、各所から近いところが利用できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での食事席の配慮や、食事席以外にもソファなど席を用意し、広い空間の中で自由に好きな場所に座れるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みのある家具や日用品を活用し、居心地良く過ごしてもらえるようにしている。	戸上収納の棚が上部にあり、空間を自由に使うことができる。使い慣れた家具や、ソファ、仏壇など希望して持ち込む方が多い。洗面台、木調介護ベッドも備え付けられ、必要な方には褥瘡予防マットの貸与もできる。表札の下には絵馬が飾られ、願い事も書かれていた。テレビの持ち込みも可能で、楽器を持ち込んで演奏を楽しむ方もいた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーを整備し、本人の出来る事、分かる事に応じて活用できるようにしている。		